
SAO—最悪の向こう側—

つかちー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

SAO―最悪の向こう側―

【Nコード】

N9951U

【作者名】

つかちー

【あらすじ】

俺には特殊能力がある。『ファースト・イメージ最悪の情景』だ。
ほんの僅かな情報から最悪の未来を予想する。
と、言っても超ビビリなだけだ。カッコもつかない。
だから今まで最悪を避けながらこつそり生きてきた。

この仮想世界『アインクラッド』に来るまでは……。

ブログ—終わる日—（前書き）

無謀な挑戦その一。

反応見ながら更新していきます。

プロローグ―終わる日―

大きな鐘の音が響いている。

俺たちは二人並んで空――正確には蓋の様な上の階層の底。そこに現れたシステムアナウンスの文字を見上げていた。

この世界が始まった時に見た物と同じものだったが。内容は正反對と言っている。

「嘘、本当に？ 本当に帰れるの？ 現実世界に？」

傍らに寄り添う少女が呟く。俺もその言葉と同じ気持ちを持っている。

唐突すぎるそのアナウンスはゲームのクリアを知らせる物だ。同時に二年半の間望み続けてきた現実世界^{リアル}への帰還でもある。

俺は護り切ったんだ。俺自身を、そして彼女を。

同じように、あの馬鹿も俺との約束を守った。今日は七十四階層のボス攻略をしているはずだ。それなのにゲームはクリアされた。後、四分の一を残して。

そんな馬鹿な真似をするのはあいつしかいないだろう。

「本当に帰れるんだ。あいつがやってくれたんだ」
言葉にしてみても、その実感は強まった。

そうだ、俺たちは生き残った。このアインクラッドでの二年半を。
「やったよ！ 一緒に帰れるんだ、現実世界^{リアル}に！」

彼女は喜びを全身で体現するかのようにピョンピョンと飛び跳ねたかと思うとこちらに抱きついてきた。

「ちよつと、いきなり……」

「よかった……よかったよお……」

こちらの胸に顔を押し付けていて表情は見えなかったが、その声色には涙の気配を感じた。

気持ちは痛いほどわかる。二年半の時間を思い出しているのだから。

怖かったはずだ。

辛かったはずだ。

悲しかったはずだ。

「……………」

俺は何も言わずできるだけ優しく彼女を抱きしめる。

少しでも彼女のそばにいてあげたいと思ってきた。護り続けてきたのだ。

俺はそのままの体勢でもう一度空を見上げた。

ありがとう、キリト。

……ありがとう、アインクラッド。

俺はログアウトで体が消え去るまで彼女を抱きしめていた。そして夢を見たのだ。戦い続けた二年半の夢を。

プロローグ―終わる日―（後書き）

本当なら双剣士が俺の正義。だがこの世界においてはキリトさんに譲るほかない。

さて、なんのスキルにしよう？

青い洗礼（前書き）

きちんと続けていけるか不安で仕方ない……。

青い洗礼

高校入学の記念にナーヴギアを買ってもらった。

悲しいほどビビリな僕もMMORPGでは勇敢に戦う戦士でいられた。だからVRMMORPGなら現実もの僕もキャラと一緒に成長したり出来るんじゃないかなと思ったんだ。

それが無理をしても《ソードアート・オンライン》のパッケージを手に入れた理由だった。

初回ロット一万本。

手に入ったのは本当に幸運だったと言える。

キャラクターエディットで屈強な戦士の姿をした渾身のアバターを作り上げ、正式サービス開始、二〇二二年十一月六日、日曜日。戦士、カイトはアインクラッドに降り立った。

ライトエフェクトが輝いて消えた。

同時にモンスターを構成するポリゴンが四散した。

開始から繰り返しモンスターと戦っているのだが、未だにゲームだと信じきれない自分がいる。

僕はMMOだというのに誰とも会話することなく果てなき冒険の大地へ一人踏み出していた。

基本的に人付き合いは苦手だ。

このゲームはなんというか感動的だった。

確実に今までのゲームの枠を超えているのだ。ついでに言うところのゲームシステムは良く馴染む。

イメージでスキルを立ち上げれば後はスキルが体を動かしてくれ。初級フィールドである一階層のモンスターなんて敵じゃなかった。

まあ、最初は様子見で、行けるとこまで行ってみようと思っていたら小さな村を見つけるに至った。

まさか生きてたどり着けるとは思っても見なかったが、丁度いいところに村があったという話だ。

ふう。と、思ったより張り詰めていた緊張を解いたとき、異変は起こった。

突然、大きな鐘の音が鳴り響いたのだ。

その音の大きさに思わず身を竦めて空を見上げる。

時報のようなものかと思ったがどうやら違うようだ。

直後に鮮やかなブルーの光が体を包み込み、その後、視界も光の中に消えていった。

青い洗礼（後書き）

多少短めになったりするのはご愛嬌と言ついで。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9951u/>

SAO—最悪の向こう側—

2011年10月8日03時46分発行